

# ビワ生育情報

千葉県  
平成20年7月号

## 最近1年間の気象及びビワの生育状況

平成19年7月から平成20年6月までの月別気象は表1に示した。月平均気温は平成19年8、9、12月及び20年3月を除く全ての月で平年を下回った。この1年間の平均気温は15.2℃で平年より0.4℃、前年より0.6℃低かった。

本年産のビワの生育状況を振り返ると、平成19年の梅雨明けは8月1日で平年より12日遅かったが、梅雨明け後の気温が平年より高かったため、花房の着生率は平年より高く、花房の出蕾も早かった。関東に接近あるいは上陸した台風は3個あったが、ビワ樹にはさしたる被害はなかった。冬の訪れは遅かったため、開花の進みは平年より5日程度早かった。冬は厳しい寒さがあり(最低気温-3℃以下の日が2日)、寒害の被害は平年よりやや多かった。春先の天候は気温の低い日があり、果実の生育は平年よりやや遅れた。5、6月の天候は気温及び日照時間が平年より低く、降水量は多かった。5月20日には激しい風雨があり、最大瞬間風速23.0m(館山測候所調)を記録し、落果がみられた。また、果実の着色が遅れ、収穫期も平年より遅れた。

表1 平成19年7月～平成20年6月の気象(暖地園芸研究所)

月	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	22.8	24.3	23.6	386	183	236	97	175	93
8	26.6	25.8	25.4	7	166	294	* (159)	220 (110)	198 (107)
9	23.4	23.0	22.5	287	250	195	137	146	139
10	17.7	18.0	18.4	216	250	204	128	137	156
11	12.6	13.3	13.7	58	158	200	140	144	146
12	8.8	8.6	8.9	114	80	291	179	166	123
1	5.1	6.0	6.8	44	96	96	121	169	113
2	4.7	6.3	8.3	67	92	75	203	151	171
3	10.1	9.1	10.1	144	191	97	195	154	184
4	13.6	13.9	12.8	274	172	129	153	166	162
5	17.2	17.8	18.1	272	172	183	147	186	213
6	19.6	20.9	21.0	433	233	105	104	135	210
平均/計	15.2	15.6	15.8	2302	2043	2105	* (1763)	1949 (1839)	1908 (1817)

\*: 欠測値

8月の( )内数字: 第1～第3半旬までの合計

計の( )内数字: 8月の( )内数字との合計

## 本年度産果実の特徴

### 1. 熟期

収穫期は表2に示した。暖地園研の収穫始めは「楠」が6月2日、「大房」が6月7日、「田中」が6月15日で、いずれの品種も平年より3～4日遅かった。収穫盛期は「楠」が6月6日、「大房」が6月11日、「田中」が6月18日で、いずれの品種も平年より1～3日遅かった。収穫終期は「楠」が6月10日、「大房」が6月15日、「田中」が6月23日で、いずれの品種も平年より1～3日遅かった。本年の収穫はいずれの品種も平年より遅く始まり、遅く終了した。

表2 収穫期(暖地園芸研究所)

品 種	収穫始期(月. 日)			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	6. 2	5.30	5.24	6. 6	6. 3	5.27	6.10	6. 8	5.31
大 房	6. 7	6. 3	5.29	6.11	6. 8	6. 2	6.15	6.12	6. 6
田 中	6.15	6.12	6. 8	6.18	6.17	6.12	6.23	6.22	6.15

平年: 最近25年間の平均

### 2. 果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさは表3に示した。果重は「楠」が57g、「大房」及び「田中」は3地区の平均で見るとそれぞれ85g、80gであった。いずれの品種も平年より8%程度上回った。

横径は「楠」が4.6cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均で見るとそれぞれ5.4cm、5.2cmで

あった。いずれの品種も平年を上回った。縦径は「楠」が4.8cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ5.4cm、5.6cmであった。「楠」及び「大房」は平年と同じであったが、「田中」は平年を上回った。

果形指数は「楠」が0.95、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.99、0.92であった。いずれの品種も平年と同じか上回り、やや丸味を帯びた果形であった。

本年の着花房率は平年より多かったが、一部では寒害の被害がみられ、カメムシの吸汁害は平年より多かった。クワゴマダラヒトリの食害は平年並であった。また、5月下旬に強風があり落果がみられた。収穫直前にいずれの地区においても「大房」及び「田中」で例年になく生理落果が多かった。暖地園研の収穫量は平年より20%程度少なかった。

### 3. 糖度及び酸度

糖度及び酸度は表3に示した。糖度は「楠」が11.7%、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ9.5%、10.1%であった。いずれの品種も平年より低かった。

酸度は「楠」が0.15、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.15、0.39で、「楠」及び「大房」は平年より低かったが、「田中」は平年より高かった。

### 4. 食味

果実硬度及び糖酸比は表3に示した。果実硬度は「楠」が0.53、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.55、0.57であった。「楠」は平年と同じであったが、「大房」及び「田中」は平年より低かった。

糖酸比は「楠」が平年より13ポイント、「大房」(3地区の平均)が8ポイント高かったが、「田中」(3地区の平均)は9ポイント低かった。

いずれの品種も果肉が平年より軟らかかったが、糖度が平年より低く、食味はやや不良であった。

### 5. 病害虫の発生

本年はカメムシの捕獲頭数が平年より多く、産地でのカメムシの発生量、吸汁被害は平年より多かった。また、そばかす、裂果、紫斑、日焼け、たんそ病等の障害果の発生は平年より多かった。

表3 果実の大きさ及び品質

品種	調査地	果重(g)		横径(cm)		縦径(cm)		果径指数		糖度(%)		酸度(g)		硬度(kg)		糖酸比	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
楠	暖地園研	57	53	4.6	4.5	4.8	4.8	0.95	0.95	11.7	11.8	0.15	0.19	0.53	0.53	76	63
	青木	78	82	5.2	5.4	5.3	5.5	0.99	0.99	10.0	10.3	0.12	0.16	0.56	0.59	81	65
	大房	83	76	5.4	5.2	5.4	5.3	1.01	0.98	9.3	10.5	0.13	0.20	0.54	0.58	73	53
大房	暖地園研	92	79	5.5	5.3	5.7	5.4	0.97	0.97	9.2	11.1	0.20	0.20	0.56	0.59	45	56
	平均	85	79	5.4	5.3	5.4	5.4	0.99	0.98	9.5	10.7	0.15	0.19	0.55	0.58	66	58
	青木	78	74	5.1	5.0	5.6	5.4	0.92	0.93	10.1	11.2	0.41	0.27	0.56	0.57	25	42
田中	南無谷	70	72	4.9	5.0	5.4	5.5	0.90	0.90	9.5	10.2	0.48	0.30	0.56	0.59	20	34
	暖地園研	91	77	5.4	5.1	5.8	5.5	0.94	0.93	10.7	11.0	0.29	0.33	0.58	0.58	37	34
	平均	80	74	5.2	5.0	5.6	5.5	0.92	0.92	10.1	10.8	0.39	0.30	0.57	0.58	27	36

果径指数：横径／縦径 糖度：屈折糖度計の測定値 酸度：果汁100ml中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値  
 硬度：果実硬度計による測定値 糖酸比：糖度／酸度  
 平均：3地区の平均、平年：最近25年間の平均(但し硬度は最近8年間の平均)

## 8月～10月の作業

8月下旬から9月一杯がせん定及び施肥の適期となる。9月中旬頃には花芽の確認ができるようになる。10月に入ると花芽の発育が進み、花房の形を表し、10月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

### せん定

8月下旬から9月中旬に行う。徒長枝あるいは混みすぎた枝を間引いて日光を樹冠内部に入れる。また上方に徒長した枝は切りつめて樹高を下げ低樹高化に努める。

### 施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実をはかる。耕土の浅い園では10aあたり分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施し、耕土の深い園ではそれぞれ11kg、9kg、7kgとやや少なめにする。

### 摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、1樹の全枝の半数に花房を残す。

摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他をかき取る。花房の長さが3～5cmの時に摘らいするのが開花期延長になり最も有効である。

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>